

キャラクター名
時雨 黒華 (しぐれ くるか)

プレイヤー名

シンドローム	バロール		ワークス	UGN支部長C	カヴァー	UGN職員
	バロール					
オプション			年齢	32	性別	女
覚醒	忘却	衝動	吸血	初期侵食率	34	%
出自	待ち望まれた子	経験	敵性組織	邂逅	師匠	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	0	0	1			1	行動値	9
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	9
精神	4	1	0			5	戦闘移動	14
社会	2	0	0			2	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	5		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識: FH	2		情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:裏社会	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
酸く穢れた桃源郷 'チエルノボグ'	RC	7r+5		17		C値8 装甲無視 与ダメージ時飛行状態解除 1/R Lv/シナ
100%超え	RC	8r+5		20		C値8 装甲無視 与ダメージ時飛行状態解除 1/R Lv/シナ

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: UGN	
コネ: 裏社会	
黒い蝙蝠傘	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
マスター・クロノス	P 執着	N 憎愛		
亡くし子 (14歳ほど)	P 慈愛	N 悔悟		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
ロイス: 時使い "クロノリガー"	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P: 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
CR: Ba	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	C値- [Lv]							
黒の鉄槌	7	1	メジャー	視界	-	対決		
効果:	攻: [Lv×2+2]							
因果歪曲	4	3	メジャー	-	範囲(選択)	対決		
効果:	対象変更 同エンゲージ不可 Lv/シナリオ							
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動		
効果:	判定失敗 1/シナリオ							
黒星の門	1	2	メジャー	-	-	-	ピュア	
効果:	ダイス+[Lv+1] 制約解除							
迎撃する魔眼	2	7	オート	視界	単体	対決	リミット	
効果:	リアクション放棄で《黒の鉄槌》のみを使用し反撃							
ディメンジョンゲート	★	3						
効果:								
ポケットディメンジョン	★	-						
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「……私にあまり近づくな。『雨』にぬれても知らんぞ」
FHからUGNへ来た「ダブルクロス」。人とのつながりを極端に嫌う、影の多い女性。

—経歴—
とあるUGN支部の支部長。ただし、その実態は管理職につかせ監視の目から逃さないためである。

彼女はもともととある外国の寂れた村に住む14歳の少女であった。名を■■■■■という。その村は——国の中でも特に、不毛な地であり雨が降らない日が長く続くことで有名であった。5年続いた飢饉のあった年、村長は一つの決断をする。村に伝わる『冥府の神』の力を村の子供に授けてもらい、その力を用いて村を救うというものだ。運よく——いや、運悪く、そんな『神頼み』は成功する。神下しの依り代となった■■■■■は生命を操る≡「時を操る」力を得たのだ。もちろん代償はただではなかっただろう。彼女はその力を使い、村に雨を、恵みをもたらした。村人は喜んだ。しかし、同時に恐れた。神の力を、彼女の力を。村人は彼女を禁忌とし、祀り、現人神とした。それでも、彼女は村の為に能力を使い続けた。いつか報われる時が来ると信じて。しかし、それが間違いだった。いや、もうすでに時は遅かったのだ。

彼女の能力に目を付けたFHが彼女の村を襲ったのだ。もちろん、村人はなす術もなく惨殺。唯一、目標であった彼女のみ救い出された。「危ないところだった。君が無事でよかったよ。君の事を僕は歓迎しよう。僕は《ファルスハーツ》。この狂った世界を生き抜くものだ」隊を率いていた18歳ほどの青年は少女にそう話しかける。初めて投げかけられた優しい言葉。自らの価値を認めてくれる場所。世間を知らない少女が「依存」するのに、時間はそうかからなかった。

FHエージェントとなった少女は、名前を捨て、自らを救い出した青年の元で過ごすようになる。「神」の力を操り、有象無象を躰き殺す彼女の姿は、敵味方から恐れられ『チエルノボグ』の名で知られるようになった。